

覆る建築の常識

C O N T E N T S

Part1 フォトルポ	7	超高層/対策	直下型大地震から守れ	54
街をのみ込んだ津波	8	非構造部材/分析	繰り返される崩落	58
非構造部材が凶器に	14	非構造部材/対策	軽さを重視、膜素材で復旧	62
旧耐震に甚大な構造被害	18	非構造部材/提言	安全は意匠設計者が担え	66
牙をむく地盤	20	非構造部材/対策	震災と制度改正で注目高まる	68
膨大な帰宅困難者や避難生活者	24	旧耐震/分析	遅かった耐震化の歩み	72
Part2 被害から探る課題と対策	25	旧耐震/分析	耐震改修済みSRC造が大破	74
津波/分析	26	旧耐震/分析	杭を補修していたのに傾いた	79
対策はゼロからの出発	26	旧耐震/対策	「補強の継続」は力なり	82
津波/解説	30	旧耐震/対策	幹線沿いで診断を義務化	84
津波避難ビルの指針	30	旧耐震/対策	住宅耐震化率2008年で79%	85
津波/分析	32	地盤/分析	宅地での液状化対策に目を向けよ	86
RC造も基礎ごと横転	32	地盤/分析	7m以内の対策は効かず	90
津波/対策	39	地盤/分析	首都圏湾岸部の新・液状化地図	96
大津波対策で新たな指針作成へ	39	地盤/対策	液状化被害の認定対象を拡大	101
津波/提言	40	地盤/対策	ガラス建築を守った地盤改良	102
想定外と総括してはいけない	40			
津波/提言	42			
木を使うなら工夫を	42			
超高層/分析	44			
求められる耐震性の検証	44			
超高層/解説	48			
大都市地盤の特性	48			
超高層/対策	50			
制振化が効果発揮	50			



地盤/分析	105	避難所/ビッグバレットふくしま	160
地滑り対策の限界が見えた	105	被災施設が被災者を守る	160
避難・BCP/分析	108	避難所/いわき芸術文化交流館アリオス	164
機能せぬ計画は再考を	108	劇場が演じ切った避難施設	164
避難・BCP/対策	110	被害概況/総覧	168
建物単体では都市機能を守れない	110	そのほかの有名建築の状況	168
避難・BCP/対策	114	被害概況/論考	172
BCPから踏み出す	114	建築史家が見た「震災と建築」	172
学会報告/分析	118		
構造被害の全容が明らかに	118		
Part3 地震分析	125	Part5 復旧・復興への道筋	177
計測記録/解説	126	計画/岩手・宮城	178
1000年に1度の規模	126	見え始めた再生の青写真	178
計測記録/分析	136	計画/福島	182
観測体制の改善を図れ	136	原発被災地で再起の第一歩	182
		検証/奥尻島	186
Part4 有名建築、震災後	137	復興14年目の不安	186
地震被害/せんだいメディアテーク	138	検証/神戸市	190
最上階の天井パネルが崩落	138	長田区、「完全復興」は遠く	190
津波被害/宮城県慶長使節船ミュージアム	144	対策/提言	194
入り江の展示棟が大破	144	教訓を踏まえて地域再生を	194
津波被害/石ノ森萬画館	148	検証/神戸市	196
浸水乗り越え、イベント開催	148	建築確認で「阪神」の教訓生かせ	196
津波被害/北上川運河交流館	152	対策/仮設住宅	200
河口から4kmでも浸水	152	被災地支援の設計提案続々	200
避難所/リアスホール	154	対策/提言	204
堅固な空間が被災者に安心感	154	インフラが欠けても動く街に	204



東日本大震災の教訓 都市・建築編
覆る建築の常識

2011年6月20日 初版第1刷発行

編者 日経アーキテクチュア
発行人 宮崎 清志
編集スタッフ 宮沢 洋、浅野 祐一
発行 日経BP社
発売 日経BPマーケティング
〒108-8646 東京都港区白金1-17-3
装丁・デザイン 原 理子 (Rico Graphic)
印刷・製本 図書印刷株式会社

©日経BP社2011
ISBN978-4-8222-6688-2

落丁本、乱丁本は日経BP社読者サービスセンターまで
電話=03-5696-1111 (平日午前9時~午後5時)
本書の無断複写・複製(コピー等)は著作権法上の例外を除き、
禁じられています。購入者以外の第三者による電子データ化及び
電子書籍化は、私的使用を含め一切認められておりません。